

平成29年度学校関係者評価結果（平成30年3月）

平成29年度 杉並区立杉森中学校 学校評価報告書

校長 山内 清一

評価→A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生徒の確かな学力の定着（知）	1. 授業規律の徹底	<p><input checked="" type="checkbox"/> 学校全体で授業規律の徹底に取り組み、共通実践を行った。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 生徒の学習意欲の向上につながった。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 確立した授業規律を維持する。</p>	B	<p><input checked="" type="checkbox"/> 今後も学校全体の共通理解の下、授業規律の徹底を共通実践・維持する。</p>	<p>○ 授業規律の内容を知りたい。 例えばチャイム着席なのか授業準備なのかはじめの号令なのか</p>
	2. ICTの活用	<p><input checked="" type="checkbox"/> ICT機器を活用した授業改善を各教科で推進した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 資料・映像等を効果的に活用することにより、生徒が集中し、学習意欲の向上につながった。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学習内容により、部分的に活用等の工夫をしている。全教員がICT機器操作に熟知していない。</p>		<p><input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した授業の内容を精選し、機器活用場面、量を増す。ICT活用の研修を実施する。他校や他学科での取り組みを知り、本校の実態に応じた形で取り入れる。</p>	<p>○ ICT機器はあくまでもツールなので使うことだけが目的にならないようにしていただきたい。 使うことのデメリットもあるので、どのように利用すれば「活用」になるのか共有する必要がある。</p> <p>○ ICTの活用により教員にとっては効果的な授業ができ、生徒にとっては学習効率がよくなり勉強が楽しくなるといいです。</p>
	3. 国・都・区の学力調査、特定の課題調査結果の分析、	<p><input checked="" type="checkbox"/> 学力向上校内委員会（8月30日実施）で各調査結果から本校の学力実態、意識等を分析し、学習指導の改善について協議した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 以下の3点が明らかになった。</p> <p>① 「内発的な学習意欲」が昨年度より肯定率が大幅に高くなっている。</p> <p>② 「情報を取集し、活用する力」では後述するH25年度からの「学びあい」の学習効果が表れているが、自分の意見や考えをまとめ、発表する力が伸び悩んでいる。</p> <p>③ 「学習方略」については、自ら学習計画を立て、実行する力が伸びてきているが、学んだことを生活に役立てるように考えるところまで及んでいない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ①向上した生徒の学習意欲を満足させる指導が必要である。</p> <p>②発表する力、表現する力、伝える力を向上させる指導が必要である。</p> <p>③学習内容を生活に結びつけて考える習慣</p>		<p><input checked="" type="checkbox"/> 教科部会で指導方法の工夫、内容を検討し、充実を図る。 各教科の担当教員が情報・意見交換を密に行える教科部会を開催するための時間的配慮を学校運営側として工夫する。</p>	<p>○ 課題の②をクリアするためにはAL型の授業回数を増やす必要があるが、従来のカリキュラムを消化する上でAL型の授業時間を確保するシラバスが必要である。またそのためには家庭学習のあり方も決める必要がある。</p>

	<p>4. 「学び合い」の継続</p> <p>5. 家庭学習</p> <p>6. 基礎・基本の定着</p>	<p>をつけさせる必要がある。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>平成33年度全面実施新学習指導要領（移行期間平成30～32年度）に向け、主体的・協働的に課題解決できる能力の育成に取り組んだ。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループ学習等を通して「学び合う」ことの生徒感想が肯定的である。区の課題調査で、「授業中、ペアやグループで活動したり話し合ったりする時間が多くある」（区平均より8.3ポイント高）「授業では、解決を目指す課題や学習計画を自分で考えて決め、仲間と協力したりしながら学習を進めることが多い。」（区平均より7.1ポイント高）「話し合いの中で違う意見や答えが出たとき、みんなが納得できるよう意見や答えをまとめることができる」（区平均より8.5ポイント高）の肯定率が高い。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>発表する力、伝達する力を育てる必要がある。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>5教科（国社数理英）を中心に学習進度に応じた宿題を課した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>宿題に取り組む家庭学習は、その日に学校で学習した内容の復習となり、知識の定着化と家庭学習の習慣化を図ることができた。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>課題に取り組まない生徒への指導が必要である。発展的な内容の課題に取り組みたい生徒の要求に応える課題の出し方が必要である。</p> <p>【補充教室】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>学校支援本部の運営による数学（火曜日）、英語（木曜日）の2教科の補充学習教室を本年度から、学期ごとの募集とした。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>学期ごとの募集により、生徒が補充教室に出席しやすくなった。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>支援本部を通して、外部指導員と本校教員との共通認識をさらに深めていく必要がある。</p> <p>【各種検定】</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>各教科で指導方法の工夫、内容の充実を図る。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>各教科の担当教員が情報・意見交換を密に行える時間的配慮を学校運営側として工夫する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>課題に取り組むことへの意識付けを工夫した指導、出題をする。基礎・基本を押さえる課題+発展的な内容に取り組める課題を出題する工夫をする。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>学校支援本部と本校担当者との連絡を密に行う。学習の進度、生徒の状況等の共通理解を図り、指導に生かす。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>数学検定は受験希望者</p>	<p>○同様に課題をクリアするためにはAL型の授業回数を増やす必要があるが、従来のカリキュラムを消化する上でAL型の授業時間を確保するシラバスが必要である。</p> <p>○学び合いが進むと個人の課題よりグループとして問題解決に取り組むための課題が増加するはず。上述したが家庭学習のあり方を決め生徒に共有する必要がある。</p>
--	---	--	---	--

	<p><input checked="" type="checkbox"/> 学校支援本部主催で英語、数学、漢字の3種の検定を実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 受験者は毎年増加している。検定に挑戦し、合格することにより、自信をもつことができ、学習意欲が向上している。杉並区の特定期間調査で78パーセントの生徒が「勉強していてもいい、楽しいと思うことがある」と回答し、区平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 準会場として実施する最低受験者数に達しなかった場合の処置。</p> <p>【本校教員による放課後、夏季休業中の補習】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 夏季休業中の三者面談期間中や放課後に各教科で生徒の実態から必要に応じて補習を実施した。教科担当だけでなく学年全体で対応した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基礎・基本の定着ができた。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 多忙な中で頻繁に実施できない。</p>		<p>が準会場実施人数に満たなかった場合、近隣校と合同実施、または申込は学校で行い、本会場実施での受験等の措置をとる ことを事前に知らせて募集する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学校支援本部主催の放課後補習教室と連動した実施形態をとる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 夏季パワーアップ教室について、学力別に教室を分けるなど工夫する必要があると思う。</p>
--	---	--	--	--

《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》

- ・「学び合い」の授業を継続していくとともに、ICT機器を効果的に使う授業で改善を推進する。各教科で家庭学習の課題を生徒に課し、学習内容の定着を図る工夫をする。
- ・夏季パワーアップ教室の運営方法について検討し、生徒にとって効果的な方法で運営する。

項目	重点目標	-取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
<p>心身の健康や生活習慣の定着</p>	<p>7. 基本的な生活習慣の定着</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 学活、道徳、保健体育等の時間に基本的な生活習慣定着の意義等を指導している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 区の特定期間調査で「早寝早起きなど、規則正しい生活を心がけている」が8.7ポイント、「自分の身の回りのことは自分でしている」が5.7ポイント肯定率が区の平均を上回っていることから、年々着実に定着が図られていることがわかる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 家庭でのnet、スマホ使用状況の増加、睡眠時間の減少から、基本的な生活習慣の乱れが予想される。</p>	<p>B</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 引き続き、基本的な生活習慣の定着を図る指導を続ける。意識調査結果を学校便り、学年便り等を通して学校から発信し、家庭と連携し、基本的な生活習慣の定着を図る。</p>	<p>○保護者との共有がカギだが、時間がかかる問題だと考えます。</p> <p>○早寝早起きは生活習慣として大変大切ですが、生徒が家庭で掃除やゴミ出し、買い物の手伝い、最近でいうと（道具がある家庭に限られますが）雪かきなど、やるべきことをやるという習慣も道徳心を育むために大切だと思います。是非そういった大切さを説いていただきたいです。</p> <p>○私立校の一部で配布されている近隣地域避難所マッ</p>
	<p>8. 防災・安</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 毎月1回、避難訓練と防災についての講話</p>		<p><input checked="" type="checkbox"/> 今後の指導計画に組み</p>	

<p>全教育の推進</p>	<p>を実施した。想定される災害（地震、火事）、時間帯（授業中、休み時間）に応じた訓練を実施できた。引き取り訓練と震災救援所訓練を同時に実施した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 訓練に真剣に取り組む生徒の姿があった。震災救援所訓練に、1学年の全生徒と中学生レスキュー隊隊員（7名）が参加し、簡易トイレ設置、AED操作等を経験し、防災に関する知識を深め溜ることができた。</p> <p><input type="checkbox"/> 不審者対応、学校外での災害発生時対応の指導が必要である。</p>	<p>込む。</p> <p>学校外で災害が発生した場合の対処方法、家族との連絡の取り方、安否を学校に知らせる方法等の安全教育を来年度の計画に入れる。</p>	<p>プがあれば便利。公園や学校など安全な場所や行動の優先順位が記されている。杉並区にはあるのか？</p>
<p>9. 体力の増進</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 本年度も体育の授業で持久力を高めるための毎時間5分間走を継続した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 都体力調査結果から、持久走は1年男子以外、都平均より10～30ポイント低い結果が出ている。現2年生は男女ともに昨年度（1年時）の結果を上回ることができた。男子（-18ポイントが-10ポイントに）女子（-24ポイントが-13ポイントに）1年間の継続の効果が現れている。</p> <p><input type="checkbox"/> 今後も五分間走をはじめとした体力増進の取り組みを続ける。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 生徒のモチベーションを維持する工夫をした指導に取り組む。都の体力調査結果を学校便り等で情報発信し、家庭の協力を得て、体力増進を進める。</p>	<p>○持久走後心不全で亡くなった生徒もでたことで他校ではただ走ることへのクレームが保護者よりでた様子。保護者への正しい伝達は今まで以上に必要だと考える</p> <p>○マラソン大会を開催していただきたいです。毎年1月に開催されている杉並区区民ロードレース大会への希望者の参加を呼び掛けていただきたいです。</p>
<p>10. 食育の推進</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 食育担当教諭、養護教諭、栄養士を中心に、1年は栄養、2年は郷土料理等、各学年の実態に応じた食育に取り組んだ。外部講師（明治乳業）による講演を行い、食習慣について、考えさせる授業を実施した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 区の特定期間調査の「食事をするとき栄養のバランスを考えている」の質問に対する肯定率が区の平均に比べ、昨年度の3.1ポイントから本年度は4.9ポイント上回った。食育を継続した結果が順調に表れている。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な食育の継続。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 学年の実態に合った内容を見直し、継続するものと新しく必要とされる内容を取捨選択し取り組む。</p>	

《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》

- ・生活意識調査の結果等の情報を発信し、保護者と連携しながら、今年度と同様に基本的な生活習慣の定着を図る。
- ・様々な状況を想定した避難訓練に取り組み、生徒自身の危機回避能力を高める。
- ・東京都の体力調査の結果はほとんどの項目で都の平均より高かった。5分間走を中心に引き続き、体力向上を図っていく。

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
豊かな心を育む教育活動（徳）	11. 道徳教育の推進	<p><input checked="" type="checkbox"/> 週1時間（年間35時間）の道徳の時間を確保し、道徳の時間のみならず、学校生活全般において生徒の道徳意識が高まる教育活動を実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学校評価の結果、道徳教育が効果的に実施されていると考える肯定率は、保護者が68.4%、生徒は84.0%であった。杉並区教育調査では、保護者が74.3%、生徒は78.2%の肯定率であった。生徒に比べ保護者の肯定率が低い。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校の取り組みを保護者に知ってもらう必要がある。</p>	B	<p><input checked="" type="checkbox"/> 道徳授業公開授業日への授業参観来校はもとより、普段の道徳授業への参観を呼びかける。</p> <p>。道徳教育推進教師を中心に各学年で統一した道徳授業を下に、クラスの実態の合わせた授業展開を図る。</p>	<p>○中学では35時間の確保が一番の問題 昨年はできていないクラスが多かったと聞いたが。</p>
	12. いじめ防止の取組	<p><input checked="" type="checkbox"/> いじめ防止基本方針の一部改訂を9月に行い、ホームページに掲載し、周知した。ふれあい月間のアンケートをはじめとし、日頃より、いじめの防止、早期発見、解決のため、全教職員が学年の枠を超え、全生徒を見守る体制をとっている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> いじめと考えられる行動の早期発見、的確な対応ができた。いじめをしない、何かあったらすぐに担任に相談する姿勢が生徒に浸透している。</p> <p><input type="checkbox"/> 新年度新しいクラス編成から生じる新たな人間関係の中でのいじめの防止の取り組みをどう進めるか。</p>		<p><input checked="" type="checkbox"/> クラス担任、学年教員学校全体で、生徒間の人間関係、生徒個々の状況を把握し、対応する学校体制をとる。</p>	<p>○本校の「他者を受け入れる姿勢」は他校より優れているので良いと思う。 ラインなど発見しづらいいじめの早期発見は本校だけでなく全学校の課題だと考える。</p> <p>○学校側の備えは整っていると思えますが、各家庭においても語り合えるように保護者の方に働きかけていただきたいです。いろいろな考えや意見があるのではないのでしょうか。個人的な意見ではありますが自分の子供を含め、人間関係に過度に敏感になり、結果として元気が足りない子供たちが多くなってきた気がします。</p> <p>□現在アンケートは教室行ってるが、それでは本当の意見は出てこないと思う。実施方法を見直す必要がある。</p>
	13. 人権尊重教育	<p><input checked="" type="checkbox"/> 人権尊重教育推進教師を中心に全教職員が道徳の時間を初めとし、学校生活全般の中で、人権尊重教育を進めた。本年度も12月の人権週間に、東京都や他府県が作成した人権週間、人権尊重教育ポスターを取り寄せ、校内に掲示し、人権尊重の精神の啓発</p>		<p><input checked="" type="checkbox"/> 12月人権週間での取り組みを継続する。 東京都教育委員会作成の「人権教育プログラム」をもとに、各人権課題に関する授業を学</p>	<p>○人権尊重の具体的なイメージがつかみにくく感じます。平等の精神を身につけるための教育ということではないのでしょうか。</p>

<p>14. 社会体験活動</p>	<p>を凶った。た。また、朝礼で校長による「人権尊重」に関する講話を実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> 自他の生命を大切にする精神が生徒に浸透してきている。 課来年度の取り組み方。 <input checked="" type="checkbox"/> 1学年のフレンドシップスクール（5月実施二泊三日）、2学年のスキー菅平移動教室（1月実施三泊四日）等の宿泊体験学習や2学年の職場体験学習（7月実施3日間）等で社会体験活動が効果的に実施できるよう取り組んだ。 <input checked="" type="checkbox"/> 活動後の生徒の感想は概ね、肯定的である区の特定期間調査で「今住んでいる地域の行事に参加している」「進んでボランティア活動をしている」「今住んでいる地域は自分たちが協力することにより、そこで生活する全ての人にとって良いものにできると思う」等の肯定率が高い。馬橋小や杉一小の運動会、盆踊り、神明宮のキャンドルナイト等のボランティア活動に多数生徒が積極的に参加し、自分が役に立ち、認められ、安心して生活していることがわかる。 課効果的な継続方法。</p>	<p>年の実態に応じ、人権尊重教育推進教育の立案のもと、実施する。 <input checked="" type="checkbox"/> 連携小学校運動会でのボランティア、神明宮キャンドルナイトでのボランティア活動は生徒に浸透しているのので、その他のボランティア活動についても知り、経験することにより生徒の社会体験活動の幅、量の充実を図る。</p>	<p>○ボランティア活動を行うことは浸透していると感じるが必要性や意義は浸透しているのかが疑問。</p>
<p>15. 生徒会活動</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 生徒会役員が中心となり、全校生徒が杉森中の行事、学校生活を充実したものに取り組む意識をもち、取り組むよう全教職員が共通理解の下、指導に取り組んだ。小中連携校の馬橋小、杉一小での朝のあいさつ運動を続けた。 <input checked="" type="checkbox"/> 各種委員会、行事への取り組み等、生徒自身が活動に満足できるものとなった。 課取り組みのさらなる充実。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 生徒会役員、委員会所属生徒が中心となって活動できているが、全校生徒が生徒会所属である。全校生徒がその意識をもち、取り組む方法を生徒会担当教員を始め、全教職員で実践していく。</p>	<p>○体育祭を参観したが生徒が主体的に行動できていたと感じた。</p>
<p>16. キャリア教育</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 第2学年では、地域の事業所の全面的な協力の下、職場体験活動を実施できた。 <input checked="" type="checkbox"/> 学校評価アンケートではキャリア教育の生徒の肯定率が82.7%と生徒自身の達成感につながった。 課取り組みのさらなる充実。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 生徒が希望する職種と受け入れ事業先の受け入れ可能人数とのギャップがなくなるよう受け入れ先の新規開拓を行う。</p>	<p>○職業自体年々変化してきている中で、職場体験をどのようにキャリア教育に活用していくのかが課題（職業の範囲も含め）</p>

				職場体験活動前のマナー教育を継続する。	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度の「特別の教科 道徳」の実施に向け「授業内容・評価方法」などを意識した取り組みを行っていく。 ・杉森中「いじめ対策基本方針」「杉森中SNSルール」等、いじめ防止について家庭に発信し、家庭の協力、理解を仰ぐ。 ・いじめに関するアンケート実施の際、生徒が意見を出しやすい状況を工夫し、早期発見、早期解決に努める。 ・ボランティア活動の意義を生徒に定着させ、社会貢献の精神や地域社会で共に生きる力をはぐくむ。 					
項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
特色ある教育活動	17. イングリッシュサークル (ESS)	<input checked="" type="checkbox"/> 八王子セミナーハウスでのESSは本年度5年目の実施となった。 <input checked="" type="checkbox"/> 参加希望者が定員 (30名) を超えたため、抽選となった。英語の学習意欲が高い生徒が本校に多数いることの表れである。民間企業に依頼した外国人講師と本校英語科教員の協力の下、最終日の成果発表では、参加生徒が自信をもって、生き生きと発表する姿が見られた。 <input checked="" type="checkbox"/> 本年度の結果を元に、来年度はさらに内容を充実させる。	A	<input checked="" type="checkbox"/> 本校英語科が中心となり、実施プログラムを作成し、外部委託外国人講師の指導を充実させる。事前指導を英語科教員全員で取り組む。	<input type="checkbox"/> ESSに参加した生徒の体験を成果発表という形で終えるのではなく、学校に持ち帰り、参加出来なかった生徒とも体験を共有できる取組があると、より効果的である。 <input type="checkbox"/> ESSが入学志望動機の一つになっているということを知り、改めて素晴らしい取り組みであると感じました。更なる充実のため事前学習などにも力を入れていきたいです。
	18. 朝読書	<input checked="" type="checkbox"/> 「言葉の教育」の一環として、学年や国語科を中心に全校体制で朝学活前に毎日朝の読書に取り組んだ。読んだ本を紹介する「書評」の時間を金曜日に設け表現力、発信力、伝達力の向上に努めた。1学期には、学校支援本部の協力のもと、朝の読み聞かせを実施した。「蜘蛛の糸」(1年)「不思議なオルガン」(2年)「かたち」(3年) <input checked="" type="checkbox"/> 日々の読書活動、外部講師の読み聞かせ等から、生徒たちは読書への興味・意欲をさらに高めることができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 読み聞かせ活動の人材確保。実施方法等の改善。		<input checked="" type="checkbox"/> 人材確保は学校支援本部の協力を仰ぐ。定着した朝読書、書評の流れを崩さず、現在は生徒個々が読書の本を選択しているが、クラスごと、学年毎に課題図書に取り組むことを視野に入れ計画立案する。	<input type="checkbox"/> 素晴らしい取り組みなので今後も継続していただきたいです。また各家庭の考え方にもよりますが、どれくらいの生徒が新聞を読んでいるのかも知りたいです。

19. 土曜授業	<input checked="" type="checkbox"/> 国際社会に生きる社会人「コスモポリタン」の育成を目指し、コミュニケーションツールとしての英語の役割を身に付ける授業を外部講師を招き、年間6回実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> 各回のテーマに基づいたレッスンに生徒は英語への興味、英語を用い、交流することへの興味が高まった。 <input checked="" type="checkbox"/> 本学年の発達段階、英語の習熟度に応じた内容への改善が必要である。	<input checked="" type="checkbox"/> 2020年オリンピック・パラリンピックを見据えての「コスモポリタン」育成であるが、2020年後も継続し、定着する取り組みとして継続する。 1～3年の生活、精神、英語の習熟度、発達段階に応じたプログラム編成に改訂する。	○コスモポリタン育成を目指して継続していただきたいです。そして国際交流が生徒の将来に何かしらの役に立つことを願っています。
20. 小中一貫教育	<input checked="" type="checkbox"/> 昨年度に引き続き、年間3回の小中合同研修会を行った。 体育科で「走り方」に関する出前授業を小学校で実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> 小中それぞれの授業を見合い、教科部会、教科外部会の2分野で各校の実態把握と小中の教育カリキュラムの一貫化に取り組んだ <input checked="" type="checkbox"/> 充実のための取り組み	<input checked="" type="checkbox"/> 小中合同研修会の進捗状況、今後の見通しを検証し、来年度の取り組みを4月実施第1回研修会で決定する。	
21. 伝統芸能鑑賞教室	<input checked="" type="checkbox"/> 3年間で能・歌舞伎・落語の伝統芸能を体験させる取り組みは本年度、国立能楽堂で「能・狂言」の鑑賞を実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> 日本伝統文化の経験と理解につなげることができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 取り組みの充実	<input checked="" type="checkbox"/> 日本伝統文化に関する教育を継続する。現在実施の3種以外への取り組みを検討する。体験前の事前学習をしっかりと行い、当日の鑑賞につなげる。事後学習にも力を入れる。	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESSでの発表を、全校生徒に披露する機会を2学期始めに行い、生徒の関心・意欲を高めていく。 ・コスモポリタン育成のための取り組みを継続し、実践的英語力を高めていく。 ・朝読書での書評発表を継続し、生徒の表現力・発信力を高めていく。 			

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
----	------	------------	----	---------	---------------

その他	22. オリンピック・パラリンピック教育の推進	<p><input checked="" type="checkbox"/> 取・元オリンピックバレーボール選手 大林素子氏を招聘し、アスリートによる講演会を1月28日に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本伝統文化教育（和楽器に親しむ）の実施（音楽科） ・アスリート模型製作（美術科） <p><input checked="" type="checkbox"/> 成各取り組みを通して生徒のオリンピック・パラリンピックに関する興味関心が高まった。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 課アスリートによる講演会の継続（講演者の選定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック開催年での生徒の活動のつなげる取り組み。 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 改蓄積した知識、経験を生徒自身が2020年、2020年以後にどう活用し、自身の成長につなげるかを見据えての指導計画を立案する。</p> <p>杉並区出身アスリートや外国大使館に依頼し、海外のアスリートによる講演会の実施を視野に入れ、選定を始める。</p>	
	23. 特別支援教育	<p><input checked="" type="checkbox"/> 取校内委員会（校長、副校長、養護教諭、都SC、各学年代表教員で構成）を月2回開催し、教員とSCの連携による個別指導・支援体制の充実を図った。また、職員会議・職員朝会等で学年間の情報伝達を密に行った。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成共通理解の下、指導・支援体制の充実を図ることができた。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 課平成31年度4月からの特別支援教室の校内体制。</p>	<p>B</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 改平成31年度開始の特別支援教室の校内体制を確立し、入室対象生徒の基準等を全保護者に通知する。</p> <p>校内委員会の定期開催を持続し、密な情報交換のもと、全校体制での取り組みを継続する</p>	○保護者への伝達、共有の方法を知りたい。
	24. 健康、安全について	<p><input checked="" type="checkbox"/> 取健康・安全についての教育、指導を養護教諭を中心に組織的・計画的に推進した。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 成養護教諭作成の「すこやか」の発行や学校保健委員会を実施することにより、生徒の健康・安全について、一層の充実を図ることができた。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 課保健室来校は少ない方だが、時として防げるであろう不注意による生徒の怪我が発生している。未然に防ぐための取り組み。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 改健康・安全に関する情報発信のため、養護教諭が発行する「すこやか」は、健康・安全に関する情報発信として、有効であり、今後も継続する。</p> <p>思わぬ怪我の可能性を考慮し、生徒が自分で防ぐ指導を進める。</p>	○未然に防ぐための取り組みとは具体的案があるのか知りたい。

<p>25. アレルギー対策</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> アレルギー対策委員会を中心に学校生活管理指導表に基づいて保護者との面談を実施した。 アレルギー事故発生を想定した教職員によるアレルギー事故対応のシミュレーション研修を実施した。 4月当初の申し出以降に保護者から申し出があったアレルギー生徒の対応について全校で共通理解をした。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> アレルギー対応の重大性を家庭と学校側で再認識することができた。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 今後の取り組み</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> アレルギー対策委員会を中心に学校生活管理指導表に基づいて定期的に保護者と面談を実施する。アレルギー事故発生対応の研修は有意義であった。来年度も継続する。</p>	<p>○学校内のことではありませんが、歯科医院で麻酔アレルギーによる事故がありました。症例が少ないせいもあり歯科医師の中には知識不足であったり意識の低い先生もいると聞いたことがあります。機会があれば生徒にもそういったアレルギーがあることを知っておいてもらいたいです。</p>
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度の特別支援教室の設置に向けて、準備をしていくとともに、保護者会などを通して、保護者の理解・啓発を図っていく。 ・不注意による生徒の怪我を未然に防ぐために、危険を伴うと予想される器具を扱う授業の際は、事前に危険性を生徒に説明し、日々の生活の中での怪我等については、生徒に周知し、自らの危険回避能力を養う。 ・アレルギー対応は今後も全校体制（生徒・保護者・教職員）で丁寧につけ、アレルギー事故の予防に努めていく。 			

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
<p>学校運営</p>	<p>26. 学校運営協議会、学校支援本部、PTAとの連携を密にし、地域運営学校としての学校運営を推進</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 密に連絡調整を行い、各種取り組みに臨んだ。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学校評価アンケートの結果、地域運営学校としての肯定率は保護者73.0%、生徒69.0%、学校支援本部との連携に関する肯定率は保護者83.7%、生徒79.8%と肯定的な評価を得た。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 今後の取り組み充実</p>	<p>B</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 学校運営協議会、学校支援本部PTAとの連携を密に続ける。</p>	<p>○小中のCS委員の交流を年1～2回行いたい</p>
	<p>27. 学校を地域に広く</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 土曜授業、ICT公開授業、体育祭合唱コンクールに加え、本年度は創立70周年記念講演</p>		<p><input checked="" type="checkbox"/> 学校便り、HPの更新、内容の充実、発行回数</p>	

<p>公開し、 情報発信 の充実</p> <p>28. 組織的・ 機能的な 学校運営</p> <p>29. 家庭との 協働</p>	<p>会を学校公開した。 学校便りを地域に配布、道路側の学校掲示板に掲示し、情報を発信した。 <input checked="" type="checkbox"/> 地域の来校者も多数あった。 学校評価アンケートにおいて、学校の情報提供に対する肯定率は保護者86.9%、生徒84.3%と高い数値を得た。 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の取り組みの充実。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学校長の学校経営方針の下、全教職員が杉森中の学校教育を充実させるべく、それぞれの立場で組織的な学校運営に取り組んだ <input checked="" type="checkbox"/> 学校評価アンケートにおいて、「学校は、校長先生を中心に教職員が協力し合っている」という項目では保護者72.3%に対し、生徒は若干低く66.4%である。「教員は、教育活動に熱心に取り組んでいる」という項目では保護者が83.6%、生徒が85.6%となった。 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の取り組みの充実</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本年度より年二回（夏季休業中と12月）全学年を対象に三者面談を実施した。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業参観、公開授業で学校に来校していただけでなく保護者の方にも、生徒の状況を直接担任から伝えることができ、保護者からの意見、考えも知ることができた。保護者との連携が密になり、生徒理解を深めることができた。 <input checked="" type="checkbox"/> 今後の取り組みの充実</p>	<p>の拡充を図り、教育活動に関する学校からの発信を充実させる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全教職員が各学年、各分掌での自身の役割を自覚し、組織的取り組みを継続する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 年二回全学年対象の三者面談を継続する。保護者からの意見・感想を学校は感謝し、柔軟に対応する体制を醸成する。</p>	<p>○学校評価アンケート「学校は、校長先生を中心に教職員が協力し合っている」は設問の意図が分かりづらく感じられます。学校運営に関し生徒の目に見えない部分での協力もあるはずなので、回答者が十分な判断材料を持っているとは思えません。</p> <p>□年2回の三者面談の内、1回を先生と保護者の二者面談にした方がいろいろな話が出ていいのではないか。</p>
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校評価の判断の根拠となる情報を保護者、生徒に発信する。 ・ 質問項目の見直しを図る。 ・ 三者面談の運営方法について、生徒の成長のために必要である効果的な方法を検討する。 			

--	--